

指定管理者評価表

様式1

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市立日高少年自然の家	
(2) 施設の設置目的	
豊かな自然環境の中で行う集団宿泊生活及び諸活動を通じて少年(20歳未満の者をいう。)の心身の健全な育成を図るため設置	
(3) 所管部局	
子ども青少年局 子ども青少年育成部 子ども育成課	
(4) 指定管理者名	
公益財団法人大阪YMCA	
(5) 指定期間	
平成26年4月1日から平成31年3月31日まで5年間	
(6) 主な事業	
少年を対象とする集団宿泊訓練及び自然学習等	
(7) 有料施設の有無	
有(利用料金制)	
(8) 公募・非公募の別	
公募	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
指導者が引率する少年の団体等	不特定多数
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
無	

2 管理運営状況

(1) 特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

和歌山県立博物館との協働により堺市内の小中学校利用の磯観察時に学芸員の派遣を原則無料で行った。日高の立地(自然条件等)を活かしたプログラム開発により他施設との差別化を図った。また、防災プログラムに関して3月の自主事業でパイロット的に行い、今後内容を充実させプログラム化を行っていく。

(2) 利用者サービス

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
指定管理者名	公益財団法人大阪YMCA	公益財団法人大阪YMCA	公益財団法人大阪YMCA	公益財団法人大阪YMCA	公益財団法人大阪YMCA
ア 利用者数 (人)	38,146	36,461	32,050	31,659	/
イ 稼働率 (%)	57	54	64	54	
ウ 利用者満足度 (%)	58	68	65	81	
「利用者サービス」における市による状況分析	平成28年度と比較し、稼働率は若干低下したものの、指定管理者の様々な取組により、高い満足度となっている。				

(3) 収支状況(単位:円)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
ア 収入	指定管理料	54,500,000	54,500,000	54,500,000	54,500,000	54,500,000
	利用料金	11,654,800	11,085,100	9,706,400	9,573,600	11,400,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	18,980	15,950	15,832	18,394	20,000
合 計		66,173,780	65,601,050	64,222,232	64,091,994	65,920,000
イ 支出	人件費	37,346,030	37,406,310	36,332,662	36,954,749	39,900,000
	委託料 ()内は総支出額に占める委託料の割合	11,705,834 (17.9%)	11,416,598 (17.6%)	9,979,429 (16.0%)	10,723,788 (17.0%)	11,820,000 (17.9%)
	その他経費	16,501,953	16,147,452	16,170,400	15,524,264	14,200,000
合 計		65,553,817	64,970,360	62,482,491	63,202,801	65,920,000
利用者一人当たりの支出額		1,718	1,782	1,950	1,996	—
ウ 収支差額		619,963	630,690	1,739,741	889,193	0
エ 市への納付金の額		—	—	—	—	—
オ 徴収委託の場合の徴収額		—	—	—	—	—
「収支状況」における市による状況分析	内部での経費支出を抑えるなどして、プラス収支差額を達成している。					

3 目標管理、評価等

(1) 適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	事故発生件数・苦情件数	(設定理由) 利用者の安全性確保によるサービス向上
	目標	事故発生件数・苦情件数ゼロ	(設定理由) 安全で快適な利用をしていただくため
	実績	事故発生件数・苦情件数ゼロ	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 事故・苦情は無かったが、モニタリングの意見を参考に改善を行っていく。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事故件数	0	0	0	1	0
苦情件数	0	0	0	0	0

平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	経年劣化により監視艇1隻、カヌー3、カヤック5の購入を行った。
---------------------------------------	---------------------------------

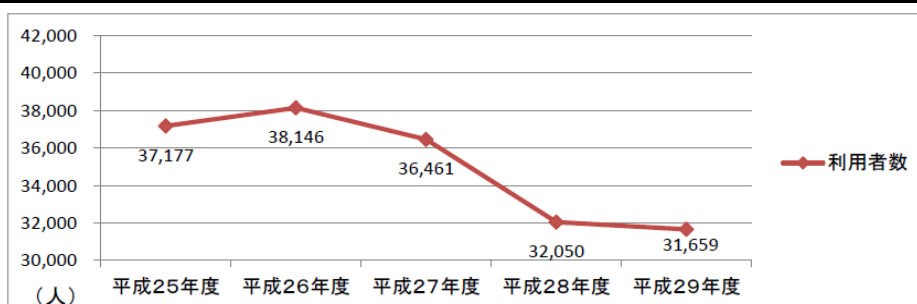
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし
-----------------------	------

評価等		指定管理者の自己評価	市の評価
	評価	A	B
	具体的な理由	利用者に対する安全啓発を確実にを行い、日々の点検や補修を迅速に行い、利便性や快適性の向上を行った。	災害時の対応など、利用者に対する周知と啓発を行っている。また、備品等の点検を行い、適宜、補修・購入をすることで、より快適な施設利用と安全管理のための工夫を実施している。
対応策等	今後も日々の点検や補修を確実に行っていく。また、研修・訓練を通してスタッフの安全管理能力を高めていく。	安全管理等の研修を実施するとともに、引き続き、快適性向上のために施設独自の工夫を検討していく。	

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	利用者数	(設定理由) 利用者促進につなげるため
	目標	33,011人	(設定理由) 28年度の約3%増
	実績	31,659人	(分析) 市外中学校の利用増加などから、昨年度の数値をほぼ維持しているが、希望日程の抽選漏れなどが影響し、増加にはつながらなかった。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項	堺市小学校対象に和歌山県立博物館の協力により、学芸員の派遣プログラムを開始した。昨年度開設したフェイスブックに、様々な日高の魅力やプログラムの様子をこまめに投稿した。
--	---

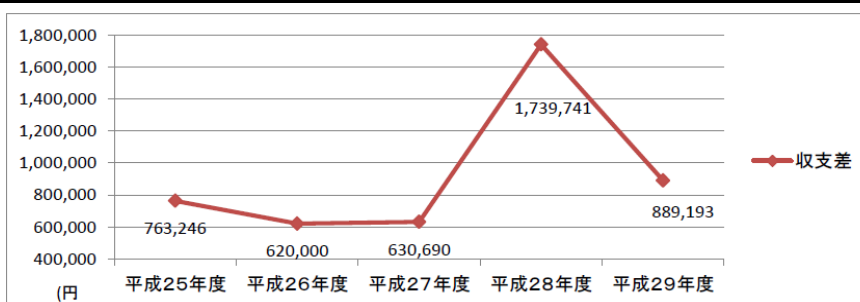
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし
-----------------------	------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B	B	B
	具体的な理由	生徒数による減少や4月休館により約千名の利用者減があった。	利用者は減少したものの、新規プログラムの開発や、食堂事業者と連携した食事内容の工夫など、施設の魅力向上に積極的に取り組んでいる。また、その他、快適な施設利用についても、日々のチェックを実施している。	
対応策等	堺市小学校向けに和歌山県立博物館学芸員の派遣プログラムを開始した。フェイスブックの投稿をこまめに行い日高の魅力を発信した。	施設の新たな取組も含んだ資料を作成し、全市校園長会、及び各学校園への個別説明などを行い、施設の魅力をより周知していく。また同時に日常の施設の安心利用に努めていく。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	収支差	(設定理由) 適正な収支による適正な施設運営の把握
	目標	収支差 55,000円	(設定理由) 収支のバランスをとる
	実績	889,193円	(分析) 工事による4月休館や台風による自主事業の中止の影響で利用料金収入が減少したが、管理経費の削減により、収支差を目標以上に出すことができた。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項	特になし
------------------------------------	------

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし
-----------------------	------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	A	A	A
	具体的な理由	空調入替に伴う電気代や節水による水道代の削減等を行い、収入減を補った。	台風などの不可抗力要素を起因とする収支の変化、利用者の減少への対応は難しいが、その中でも、施設独自の工夫でプラス収支差額を達成している。	
対応策等	今後、電気配線関係やボイラー関係など計画的に補修を行っていく必要がある。	計画的に設備等ハード面の整備を行うとともに、新規プログラムの周知などソフト面の改善を行い、さらなる収支状況の向上に努める。また、引き続き施設内での支出削減部分を検討する。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの